

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
法学部	法学科	夜・通信			14	14	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			14	14	13	
保健医療学部	看護学科	夜・通信			13	13	13	
	健康スポーツ科学科	夜・通信			14	14	13	
歯学部	歯学科	夜・通信			19.5	19.5	19	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>法学部：WEB シラバス (<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/">https://risyu.asahi-u.ac.jp/</a>) よりゲストユーザでログイン、シラバス検索「キーワード」に「実務家教員(法)」で検索</p> <p>経営学部：WEB シラバス (<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/">https://risyu.asahi-u.ac.jp/</a>) よりゲストユーザでログイン、シラバス検索「キーワード」に「実務家教員(営)」で検索</p> <p>保健医療学部看護学科：WEB シラバス (<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/">https://risyu.asahi-u.ac.jp/</a>) よりゲストユーザでログイン、シラバス検索「担当課」に「学事一課 看護学科」、「キーワード」に「実務家」で検索</p> <p>保健医療学部健康スポーツ科学科：WEB シラバス (<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/">https://risyu.asahi-u.ac.jp/</a>) よりゲストユーザでログイン、シラバス照会、シラバス検索「担当課」に「学事一課 健康スポーツ科学科」、「キーワード」に「実務家」で検索</p> <p>歯学部：WEB シラバス (<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/">https://risyu.asahi-u.ac.jp/</a>) よりゲストユーザでログイン、シラバス検索「担当課」に「学事一課 学生支援担当 歯学部」、「キーワード」に「実務家」で検索</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

朝日大学ホームページに掲載 <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/media/officer.pdf">https://www.asahi-u.ac.jp/media/officer.pdf</a>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	法律事務所（弁護士）	2023.6.1～ 2027.5.31	法務、コンプライアンス
非常勤	私立大学（教授）	2023.6.1～ 2027.5.31	教育・研究
非常勤	広告社 （代表取締役社長）	2023.6.1～ 2027.5.31	コンプライアンス
非常勤	法律事務所（弁護士）	2023.6.1～ 2027.5.31	コンプライアンス
非常勤	法律事務所（弁護士）	2023.6.1～ 2027.5.31	法務、コンプライアンス
（備考）			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画書(シラバス)の作成は、毎年10月以降、教務学生委員会、教授会等において、各学部等の次年度授業計画を決定し、その後、各授業科目担当教員に対し、授業計画書(シラバス)作成に必要となる、「講義概要」「到達目標・卒業要件との関連」「授業計画・時間外学修」「履修の条件・注意事項」「成績評価基準方法」「テキスト」「参考書」「オフィスアワー」等を記載した作成要領について、FD研修会等において説明・確認を行ったうえ作成を依頼している。</p> <p>授業担当教員が作成した授業計画書(シラバス)は、2月～3月中旬に、各学部において、学部長等のチェックを実施し、授業計画書(シラバス)が正しく記載されているかを確認の上、必要に応じて修正を求めている。</p> <p>作成した授業計画書(シラバス)は、3月下旬までに、大学ホームページで公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/">https://risyu.asahi-u.ac.jp/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>単位の授与及び成績評価は、学則第26条及び第30条に基づき、試験の成績、平素の学修成績、出席状況等を総合して行っている。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる授業科目については、各学部細則に定めるところにより当該学修の成果を評価して単位を授与している。</p> <p>成績評価基準は、科目毎に「定期試験」「授業の取り組み状況」「レポート」「小テスト」等の割合を定め、履修要覧やホームページに記載し、あらかじめ学生に対し公表している。</p> <p>各授業科目の成績評価は、授業計画書(シラバス)に明示した成績評価の方法と基準に従い、各教員が評価を行っている。また、一つの科目で、複数教員が担当する科目においては、成績分布に関する申し合わせ等を行い、評価にばらつきや不公平が生じないように認識の統一を図るなど、厳格かつ適正に評価し行っている。</p> <p>成績の評価は、GPAに換算し、学生に周知しており、その結果を履修上限の緩和等への活用も行っている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価については、アセスメントポリシーに関する規程において、学生の学修成果の評価の方針（アセスメントポリシー）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等に関し必要な事項を定め、達成すべき質的水準については、同規程第4条において、GPA制度に関する規程に基づきGPAを算出する制度を定める。

GPAの算出方式は、学生が当該年度（または、在学中の全ての期間）に成績評価を受けた授業科目を次表のグレード・ポイント（GP）に変換し、当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修登録合計単位数で除した値（小数点第3位以下切り捨て）とする。

成績評価（点数：100点満点）	GP
S（100～90点）	4.0
A（89～80点）	3.0
B（79点～70点）	2.0
C（69～60点）	1.0
D（59点以下）	0.0

<GPA算出方法>

$$\frac{(S \text{ 評価の単位数} \times 4) + (A \text{ 評価の単位数} \times 3) + (B \text{ 評価の単位数} \times 2) + (C \text{ 評価の単位数} \times 1)}{\text{履修登録合計単位数}}$$

(※ なお、教職課程科目、単位認定科目については、その計算式には含めない。)

GPAを活用した調査、分析は、授業科目については、各学部FD委員会及び担当教員が授業科目の成績評価の分布及び授業評価の結果を確認し、授業の改善・向上・開発に取り組んでいる。教育課程については、各学部・学科において検証の結果を共有し、全学又は学部・学科として改善・向上・開発に取り組んでいる。

また、各学部は、全学FD委員会及びIR推進本部へ定期的にデータ提供を行い、IR推進本部において成績分布やGPAなどの分析を行っており、全学部生のGPA分布（ヒストグラム）をホームページ上で公表している。

また、科目別学業成績（年度別比較表）を学期終了時に作成し、教務担当事務窓口にて公表している。（学内のみ公表。）

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

2023年度GPA表、科目別成績表

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○法学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（法学）の学位を授与している。

教養教育科目（共通） 必修10単位、選択24単位以上

法学専門教育科目（コースを選択）

公務員コース 必修58単位、選択必修12単位以上、選択8単位以上

企業法務コース 必修46単位、選択必修16単位以上、選択16単位以上

演習科目（共通） 必修12単位

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 基本六法を中心とする諸法律に関する幅広い知識及び高度な専門性を有する分野の知識を身に付けている。
2. 社会情勢の変化や多様なニーズに対応し得る法的思考能力、判断力及び行動力を身に付けている。
3. 上記1と2の能力を法曹、行政、税務等の専門的職業において発揮するための応用力を身に付けている。
4. 深い教養と豊かな人間性及び国際性を身に付けている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○経営学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（経営学）の学位を授与することとしている。

基礎教育科目 必修8単位、総合教育科目 選択22単位以上

言語教育科目 選択必修4単位

専門教育科目 必修42単位、選択必修8単位、選択40単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. ビジネスマインドを備え、地域と事業の発展に貢献し、組織の一分野を担いうる知識と技量を身につけている。
2. 情報を活用して適切なコミュニケーションと意思決定を行いうる知識と技量を身につけている。
3. ソーシャル・キャピタルを理解し、実践的に経営に参画、挑戦できる企画力・実践力を身につけている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部看護学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（130 単位以上）を修得した者に対して、学士（看護学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 12 単位、選択 6 単位以上

専門基礎科目 必修 29 単位、選択 4 単位以上

専門科目 必修 78 単位、選択 1 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 看護の対象となる人々を生活者として包括的に理解し、援助的関係を構築する能力を身につけている。
2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する高い倫理観を身につけている。
3. 保健医療福祉チームの一員として、多職種間で連携・協働できる基礎的能力を身につけている。
4. 根拠に基づき必要とされる看護を判断し、計画的・創造的に実践する能力を身につけている。
5. 看護が果たすべき社会的責務を理解し、地域社会に貢献する基礎的能力を身につけている。
6. 社会人としての豊かな学識、国際性を身につけている。
7. 自己の看護観を育みながら、生涯にわたりその能力の維持・向上に努める姿勢を身につけている。
8. 看護学の発展に寄与できる探究心および基礎的な研究的態度を身につけている。

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部健康スポーツ科学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（124 単位以上）を修得した者に対して、学士（健康スポーツ科学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 8 単位、選択 18 単位以上

専門教育科目 必修 32 単位、選択必修 2 単位以上、選択 64 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. オールラウンドなスポーツ実践能力
2. ライフステージに応じたスポーツ指導能力
3. 健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力
4. スポーツにおける企画及び管理・運営能力

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○歯学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（歯学）の学位を授与することとしている。

基礎教育系科目 24 単位以上

専門教育系科目 6,756 時間以上履修し、修了の認定を受ける

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 歯科医師として必要な倫理観や人間性を身につけるとともに、幅広い知識と豊かな教養を有している。
2. 地域社会や国際未来社会で活躍できるコミュニケーション能力や英語能力を有しているとともに幅広い視野とリーダーシップを有している。
3. 歯科医学の専門知識及び口腔疾患の予防・診断・治療に関する知識・技能を修得している。
4. 全身医学との関連を理解し、患者にとって良質で安全な歯科医療を実践することができる。
5. 多様化する地域社会の歯科医療ニーズにきめ細やかに対応し、口腔ケア、在宅歯科診療や、地域包括ケアシステムなど多職種連携チーム医療をもとに、地域社会に貢献する歯科医療を実践できる高い臨床能力を身につけている。
6. 研究心と論理的思考能力を持って日々進歩する歯科医学・歯科医療を常に研鑽し、歯科医療の発展のために生涯にわたり自らの歯科医療の知識と技術の向上を図ることができる。

卒業認定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	法学部 <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/</a> 経営学部 <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/</a> 保健医療学部看護学科 <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/</a> 保健医療学部健康スポーツ科学科 <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/</a> 歯学部 <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/</a>
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/</a>
財産目録	<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/</a>
事業報告書	<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-jigyou/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:朝日大学事業計画 対象年度:2024年度)
公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/media/zigyokeikaku2024.pdf">https://www.asahi-u.ac.jp/media/zigyokeikaku2024.pdf</a>
中長期計画(名称:朝日大学の中期目標・中期計画 対象年度:2021年度~2025年度)
公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/media/mediuplan2021-2025.pdf">https://www.asahi-u.ac.jp/media/mediuplan2021-2025.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-selfcheck/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-selfcheck/</a>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-ninsyou/">https://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/f-ninsyou/</a>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------



(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/</a> )
(概要) 法学部は、法学の専門知識及び社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、社会情勢の変化に対応し得る法的思考能力と判断力及び深い教養と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。 教育理念は、建学の精神を踏まえ、法学及び関連領域に関する専門知識並びに豊かな人間性と国際性を身につけ、社会の様々な分野に生起する諸課題解決のために法的思考・判断能力を発揮できる人材の養成を目指すことにある。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/</a> )
(概要) 卒業時に次の到達目標 (ディプロマ・ポリシー) を達成することを掲げています。 本学部に 4 年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して、学士 (法学) の学位を授与することとしています。 1. 基本六法を中心とする諸法律に関する幅広い知識及び高度な専門性を有する分野の知識を身に付けている。 2. 社会情勢の変化や多様なニーズに対応し得る法的思考能力及び判断力、行動力を身に付けている。 3. 上記 1 と 2 の能力を法曹、行政、税務等の専門的職業において発揮するための応用力を身に付けている。 4. 深い教養と豊かな人間性及び国際性を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/</a> )
(概要) 法学の専門知識及び社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、社会情勢の変化に対応し得る法的思考能力と判断力及び深い教養と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを教育目的としており、これを達成するため、次のとおり教育課程の編成方針を定め、それぞれの目的に応じた授業科目を開設することとしています。 1. 問題の本質を見抜き、解決できる能力を身に付けるため教養科目を重視 (社会・情報・自然科学等の科目を配置) するとともに、言語教育、専門科目を体系的にバランスよく配置する。 2. 学生の進路目標に合わせた 2 つのコース (「公務員コース」及び「企業法務コース」) を設置し、それぞれにおいて専門的かつ実践的な教育を行う。 なお、両コースとも、基本六法の徹底からスタートし、学年進行に合わせて、学生の進路目標達成のために最適な発展科目や関連科目を学習し、自己表現能力、情報収集・分析力などを修得できるよう、体系的な科目配置とし、さらに、これらを基に資格試験・就職試験等に対応する学修を集中的に行う実用科目も配置する。 3. 少人数クラスで構成する演習を 4 年間に渡って開講し、専門テーマごとの指導に加え、修学に関する事項から就職指導に至るまでの個別教育を徹底して行い、創造性を身に付ける。 4. 社会性と国際性を身に付けるため、インターンシップや法廷見学、海外語学研修等を積極的に取り入れることとし、このため、各授業科目においては、厳格な成績評価基準に基づく単位認定を行うことで、教育の質及び成果の維持・向上に努めるものとする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/lw/lw-gaiyo/</a> )

<p>(概要)</p> <p>法学部では、次のような能力・関心のある入学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 協調性や基本的コミュニケーション能力がある人（協調する人）</li> <li>2. 現代的な課題に対し、主体的に考え、取り組もうとする人（創造する人）</li> <li>3. 社会のルールを尊重し、行動する人（ルールを守る人）</li> <li>4. 多様化した国際社会の変化に関心のある人（国際未来社会を切り拓く人）</li> <li>5. リーガルマインドを身に付け、社会に発生する諸問題を解決しようとする人（問題解決のために努力をする人）</li> </ol>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学部等名 経営学部
-----------

教育研究上の目的(公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/</a> )
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(概要)</p> <p>経営学部は、経営学・情報学の専門知識及び社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、社会情勢の変化に対応し得る経営能力、情報活用能力、企画・実践能力及び深い教養と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。</p> <p>教育理念は、社会性と創造性、人間的知性に富む人間の育成という建学の精神にのっとり、地域社会全体の持続可能性と国際未来社会を結びつけうる人材を養成することにある。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/</a> )
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(概要)</p> <p>卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げています。</p> <p>本学部に4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して、学士の学位を授与することとしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスマインドを備え、地域と事業の発展に貢献し、組織の一分野を担いうる知識と技量を身につけている。</li> <li>2. 情報を活用して適切なコミュニケーションと意思決定を行いうる知識と技量を身につけている。</li> <li>3. ソーシャル・キャピタルを理解し、実践的に経営に参画、挑戦できる企画力・実践力を身につけている。</li> </ol>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/</a> )
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>経営学部では、教育目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、体系的なカリキュラムを用意している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学直後は学びの領域（コース）にとらわれず共通の必修科目を中心に学習する。その内は、社会人としての幅広い教養を修得する共通教育の基礎教育科目と、経営学の基本的な体系を広く身につける専門教育基幹科目となる。また、共通教育科目については、各自の興味関心に応じ選択で人文科学、社会科学、自然科学等の総合教育科目や言語教育科目を履修する。</li> <li>2. 専門教育においては、社会性を身につける社会連携科目にくわえ、それぞれの学びをさらに深める基礎科目、また学科に応じ専門性を一層高める学科科目を履修する。</li> <li>3. 教員と少人数の学生が密接にかかわる教育を行うための演習科目を必須としている・1年生の基礎演習では、学生それぞれの希望や資質に応じ学びの領域（コース）を教員が助言し、それに応じた履修モデル（カリキュラム・マップ）を示しながら、各自が学習計画と目標をたてられるよう指導していく。また2年生以降の専門演習では、履修モデルで学んだ知識を応用しながら、それぞれの学びの領域に応じた知識と思考法、問題解決法を獲得するための選択と意思決定等を学ぶ。 演習科目では、地域貢献の土台となる信頼を生み出す人間関係やソーシャル・キャピタルを体感することも重要な課題であり、演習への貢献意欲やコミュニケーションも評価される。</li> <li>4. 代表的な学びの領域（コース）は以下のとおり。 &lt;マーケティング&gt; 地域ブランドのシーズを調査し、商品開発や販売促進する方法を身につけ、他地域に情</li> </ol>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

報発信できる知識と技量を身につける。

<会計・ファイナンス>

「継続的事業体」の活動を貨幣数値的に把握、分析し、これをさまざまな利害関係者に伝達し、その意思決定に貢献する情報とすることができる知識と技量を身につける。

<国際流通>

国内外の生産と消費の間の取引を効果的にすすめるための商業・流通・物流についての管理の知識と技量を身につける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/mng/mng-gaiyo/>）

（概要）

地域や社会に役立ちたいという使命感を持ち、将来それを支える活動に主体的かつ積極的に貢献する意欲のある次のような入学生を求めています。

1. 大学内の各種活動をはじめとした社会的活動に積極的に参画する意識を持ち続けられる人（本学部への参画意識）
2. 地域や社会で起こっている事象への関心と、それに関わる人間の行為、組織や社会の活動に強い興味を持っている人（社会への関心）
3. 高校生活を通じクラブ活動や社会活動等に積極的に参加するなど、他者と協働するコミュニケーション能力を備えている人（コミュニケーション力）
4. 高等学校での国語を中心とした主要科目の教科書レベルの幅広い知識や、専門高等学校での商業科目の基本的な知識と技能を修得している人  
留学生については、基本的な日本語能力を持つ人（知識・思考力）
5. 将来、地域や社会に役立ちたいとの思いを持つ人（意欲）

学部等名 保健医療学部看護学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/>）

（概要）

保健医療学部は、保健衛生学・健康科学・スポーツ科学の専門知識及び高度な医療技術並びに社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

看護学科は、看護学・保健衛生学・健康科学の専門知識及び高度な医療技術並びに社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

看護学科の教育理念は、建学の精神に則って、生命の尊重と個人の尊厳を基本として深い人間理解のもとに、学修者本位の創造的な教育を推進することで、高度な専門的知識・技術、高い倫理観と豊かな人間性、幅広く深い教養、国際性を兼ね備えた看護専門職者を育成し、地域社会ならびに国際社会に貢献することにより、多様な価値観を持ち生活する人々の健康を支える人材を育成することを目指す。

看護学科の教育目標は、教育理念・目的に基づき、次の3つの力を身に付けることとする。

- 1 多様性を尊重し人との関係を構築する力
  - (1) 看護の対象となる人々とその生活が理解できる。
  - (2) 看護の対象となる人々と援助関係を構築できる。
  - (3) 看護専門職者としての倫理観に基づき、対象となる人々の尊厳と権利を守ることができる。
- 2 社会のニーズに対応し貢献する力
  - (1) 根拠に基づいた看護の必要性を判断することができる。
  - (2) 適切な看護援助技術を用いて、計画的・創造的に看護を実践できる。
  - (3) 保健医療福祉チームの一員として、看護職が果たす役割を理解できる。
  - (4) 社会人としての学識を身につけ、社会の動向を敏感に捉えることができる。

<p>(5) 異文化を理解し国際的視野をもつことができる。</p> <p>3 看護専門職者として生涯学修し続ける力</p> <p>(1) 看護専門職者としての自らの課題を見出し、解決に向けた努力ができる。</p> <p>(2) 専門的能力を向上させるための学修が継続できる。</p> <p>(3) 批判的思考を持ち、よりよい看護実践を探究する姿勢を身につけることができる。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法：<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>看護学科は、教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対し、学士(看護学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の対象となる人々を包括的に理解し、援助的関係を構築する能力を身につけている。</li> <li>2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する高い倫理観を身につけている。</li> <li>3. 保健医療福祉チームの一員として、多職種間で連携・協働できる基礎的能力を身につけている。</li> <li>4. 根拠に基づき必要とされる看護を判断し、計画的・創造的に実践する能力を身につけている。</li> <li>5. 看護が果たすべき社会的責務を理解し、地域社会に貢献する基礎的能力を身につけている。</li> <li>6. 社会人としての豊かな学識、国際性を身につけている。</li> <li>7. 自己の看護観を育みながら、生涯にわたりその能力の維持・向上に努める姿勢を身につけている。</li> <li>8. 看護学の発展に寄与できる探究心及び基礎的な研究的態度を身につけている。</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法：<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>看護学科では、教育目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、次のとおり教育課程の編成方針を定め、必要な授業科目を体系的に編成する。なお、科目の配置は保健師助産師看護師学校養成所指定規則に準拠するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業科目は教養基礎科目、専門基礎科目、専門科目で構成し、社会人としての豊かな学識を身につけるとともに、看護専門職としての基礎的な知識や看護実践能力の学びを深める。</li> <li>2. 幅広い教養を身につけるとともに、倫理的な考え方や物事を多元的にとらえる力、異文化や異なる環境にある人の理解、多様性を尊重し社会の中で創造的に行動していく力を育成するため、教養基礎科目では「学修の基盤」、「人と科学」、「人と生活」、「人の尊厳」に基づいた授業科目を配置している。</li> <li>3. 人間の健康を理解するための知識や多職種間で連携・協働できる能力の基礎を修得することを目的し、専門基礎科目では「社会と健康」、「からだと健康」、「こころと健康」に基づいた授業科目を配置している。また、本学は歯学部を有することから、その特性を活かし、健康状態と密接に関連する口腔の健康に着目した科目を設定している。</li> <li>4. 教養基礎科目、専門基礎科目の知識と看護学の知識・技術を統合し、看護が果たすべき社会的責務を理解し、看護の対象となる人との援助的関係を構築する能力、あらゆる対象への計画的・創造的な看護実践、及び看護学を探究的に学修する力と研究的態度を育成することを目的し、専門科目「看護の基礎」、「生活の場と看護」、「ライフステージと看護」、「看護の統合と探究」に基づいた授業科目を配置している。これらを通じて、個人、家族及び地域社会で生活する人々の健康レベルに応じた、高度な看護実践能力を育成する。</li> <li>5. 専門科目には国際性を育むため、選択科目として看護海外演習及び国際看護論を配置している。</li> </ol> <p>また、学生の関心に応じて選択できる科目を4年次に配置し、幅広い視野と主体的学修ができる基礎的能力を身につけ、生涯にわたり自己の能力の向上に努める姿勢を育成する。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/nrs/nrs-gaiyo/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>次のような者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、自らすすんで学ぼうとする人</li> <li>2. 生命に対して尊厳をもち、さまざまな価値観を認めることができる人</li> <li>3. 保健医療福祉活動を通して社会に貢献することを望む人</li> <li>4. 誠実で思いやりをもって他者と関わることができる人</li> <li>5. 他者の意見を聴き、自分の考えを表現できる人</li> <li>6. 探究心をもち、課題解決に積極的に取り組むことができる人</li> </ol>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>学部等名 保健医療学部健康スポーツ科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>保健医療学部は、保健衛生学・健康科学・スポーツ科学の専門知識及び高度な医療技術並びに社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。</p> <p>健康スポーツ科学科は、健康科学・スポーツ科学の専門知識、高度なスポーツ実践技能及び指導技術並びに社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（健康スポーツ科学）の学位を授与することとしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オールラウンドなスポーツ実践能力</li> <li>2. ライフステージに応じたスポーツ指導能力</li> <li>3. 健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力</li> <li>4. スポーツにおける企画及び管理・運営能力</li> </ol>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/>）

（概要）

オールラウンドなスポーツ実践能力、ライフステージに応じたスポーツ指導能力、健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力並びにスポーツにおける企画及び管理・運営能力を身に付けさせ、健康やスポーツに関する知識・技術・技能を修得させることを目標として、これに必要な授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実技、実験・実習を適切に組み合わせた授業を開講することである。

加えて、4年間の限られた大学教育課程の中で、全ての学生が共通に必要なとなる、保健体育教員やスポーツ指導者としての基本的な資質や能力を修得させ、同時に将来の目標に向かって必要な能力を高めるためにそれぞれの専攻やコースにおいて必要な科目を配置し、主体的に学ぶことができるように選択科目を多く設定している。実技についてもそれぞれのスポーツ種目の受講時間を確保するとともに指導に必要な知識と技能を高めるために、実技、実習等の科目を多く設定している。

具体的には、カリキュラムポリシーに基づき、本学科が養成を目指す人材（「中学校・高等学校の保健体育教員」、「ライフステージに応じた指導のできる人材」、「地域のスポーツを支える人材」、「クラブチーム、スクールなどで選手やコーチとして活躍できる人材」）の基盤を確実に学ぶことができるよう、3つの専攻「教員養成専攻」、「健康・スポーツマネジメント専攻」及び「競技スポーツ科学専攻」を設置し、それぞれの履修モデルを学生に提示し、選択履修させることにより、将来の進む分野に必要な知識・技術・技能の修得が可能となるようにする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/sports/sports-gaiyo/>）

（概要）

健康科学やスポーツ科学に関心を持ち、次のような能力、意欲を持った入学生を求めています。

1. 協調性や基本的コミュニケーション能力がある人
2. 入学後、スポーツ活動や社会活動に積極的に参画する意欲がある人
3. 高等学校等における学習を通して、外国語（英語）並びに国語、数学又は理科の基本的な知識や技能を習得している人
4. 将来、地域や社会で次のとおり活躍したいと思っている人
  - （1）保健体育の教員を希望している。
  - （2）地域スポーツの推進に貢献したい。
  - （3）スポーツリーダーとして活躍したい。

学部等名 歯学部歯学科
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/</a> )
<p>(概要)</p> <p>教育目的は、建学の精神にのっとり、グローバル化する医療の中で、高い倫理観をもって常に患者の気持ちに向き合い、社会貢献に積極的に関与できる、豊かな人間性・国際性を兼ね備えた歯科医師を養成することにあります。そのため、教養教育と歯科医学の専門教育で構成した系統教育および統合教育により、高度な専門知識と専門技術を習得し、高い倫理観と教養を身につけ、地域社会に貢献するとともに国際社会にも通用する歯科医師の育成を目指しています。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/</a> )
<p>(概要)</p> <p>卒業時に次の到達目標 (ディプロマ・ポリシー) を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士 (歯学) の学位を授与することとしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科医師として必要な倫理観や人間性を身につけるとともに、幅広い知識と豊かな教養を有している。</li> <li>2. 地域社会や国際未来社会で活躍できるコミュニケーション能力や英語能力を有するとともに幅広い視野とリーダーシップを有している。</li> <li>3. 歯科医学の専門知識及び口腔疾患の予防・診断・治療に関する知識・技能を修得している。</li> <li>4. 全身医学との関連を理解し、患者にとって良質で安全な歯科医療を実践することができる。</li> <li>5. 多様化する地域社会の歯科医療ニーズにきめ細やかに対応し、口腔ケア、在宅歯科診療や、地域包括ケアシステムなど多職種連携チーム医療をもとに、地域社会に貢献する歯科医療を実践できる高い臨床能力を身につけている。</li> <li>6. 研究心と論理的思考能力を持って日々進歩する歯科医学・歯科医療を常に研鑽し、歯科医療の発展のために生涯にわたり自らの歯科医療の知識と技術の向上を図ることができる。</li> </ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/">https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/</a> )
<p>(概要)</p> <p>教育課程の編成方針を次のとおり定め、必要な授業科目を系統的あるいは統合的に開設しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い知識と豊かな教養について、基礎教育系科目を通じて学修するとともに、歯科医師として必要な倫理観や人間性について、「建学の精神と社会生活・リベラルアーツ」、「歯科医学演習」、「解剖学実習」等を通じて学修する。</li> <li>2. 歯科医師として必要な人間性、国際性を身につけるため、「基礎ゼミ」、「英会話」等を通じて、コミュニケーション能力、英語能力及び歯科医師へのモチベーションの向上を図る。</li> <li>3. 歯科医学の基本となる生命科学について理解する上で必要な人体や歯の構造・機能、病態について解剖学、生理学、病理学、生化学、微生物学、薬理学等の科目を設け系統かつ多元的に学修するとともに、生体材料学については歯科理工学を設け学修する。</li> <li>4. 歯科医学の専門知識及び高度な医療技術を習得するため、臨床系科目を開設し、講義及び実習を通じて歯科医師として必要な知識・技能・態度を身につける。</li> <li>5. 朝日大学医科歯科医療センターおよび朝日大学病院等の臨床の現場において、臨床経験豊富な教員による多様な歯科医療ニーズに対応した実践的な実習教育を行い、社会的需要を見据えた歯科医師となるための能力を習得する。</li> <li>6. 全身医学の基礎、全身医学と歯科医療との関連について、「口腔外科学」、「歯科麻酔学」、「内科学」、「外科学」、「隣接医科学」等を通じて学修する。</li> <li>7. 少子高齢社会の進展にともなって多様化する歯科医療ニーズに対応し、岐阜県の地域特性を活かし、口腔ケア、在宅歯科診療、地域包括ケアシステム、多職種連携チーム医療など、地域社会に貢献するための歯科医療を統合的スパイラル教育にて学修する。</li> </ol>

8. 積極的な自主的学習態度と理論的思考能力を養い、問題発見・解決に自ら取り組む学習手法を習得するために、探究型学習（高次元アクティブラーニング）を活用する。
9. 研究マインドを持った医療人の育成のために、研究室での研究実習を実施する。
10. 国際人としての素養を修得するため、海外研修を推進する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:<https://www.asahi-u.ac.jp/dpt/faculty/dn/dn-gaiyo/>)

(概要)

教育目標を十分に理解し、国際社会と地域社会貢献に積極的な意識を持つ、次の入学生を求めています。

1. 生命を尊重し、他人を思いやる心がある人（倫理観）
2. 自己の考えを適切に相手に伝える基礎的表現力や、相手の話を積極的に理解しようとする意識が高く、協調性のある人（表現力）
3. 国際社会への関心が高く、英語による基礎的コミュニケーション能力を備えている人（コミュニケーション力）
4. 高等学校学習指導要領に基づく数学、理科の基本的な知識を身につけ、論理的思考力を有する人（知識・思考力）
5. 歯科医師を目指す強い意志と、卒業後も生涯にわたって医療を通じた社会貢献が期待できる人（意欲）
6. 心身の健康増進に努め、日々の努力を惜しまず自己目標を完遂する力のある人（医療人としての資質）

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.asahi-u.ac.jp/media/soshikizu.pdf> ※法人組織図



③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
法学部	—	8人	7人	3人	0人	0人	18人
経営学部	—	19人	5人	0人	1人	0人	25人
保健医療学部 看護学科	—	5人	8人	8人	8人	1人	30人
保健医療学部 健康スポーツ科学科	—	13人	2人	9人	2人	0人	26人
歯学部	—	37人	16人	28人	50人	1人	132人
附属病院	—	32人	11人	12人	17人	0人	72人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		581人					581人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://gyoseki.asahi-u.ac.jp/ashuhp/KgApp">https://gyoseki.asahi-u.ac.jp/ashuhp/KgApp</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育の改善・充実を目的とし、学内外から講師を招へいして年8回程度の実践的・体系的な全学FD活動を実施している。さらに各学部においても、年数回程度のFD活動を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	80人	68人	85.0%	320人	247人	77.2%	—人	0人
経営学部	100人	131人	131.0%	400人	451人	112.8%	—人	0人
保健医療学部 看護学科	80人	81人	101.3%	320人	340人	106.3%	—人	0人
保健医療学部 健康スポーツ科学科	120人	126人	105.0%	480人	428人	89.2%	—人	0人
歯学部	140人	128人	91.4%	840人	843人	100.4%	—人	5人
合計	520人	534人	102.7%	2,360人	2,309人	97.8%	—人	5人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	114人 (100%)	2人 (1.8%)	104人 (91.2%)	8人 (7.0%)
経営学部	132人 (100%)	7人 (5.3%)	106人 (80.3%)	19人 (14.4%)
保健医療学部 看護学科	91人 (100%)	0人 (0%)	87人 (95.6%)	4人 (4.4%)
保健医療学部 健康スポーツ科学科	103人 (100%)	1人 (1.0%)	93人 (90.3%)	9人 (8.7%)
歯学部	102人 (100%)	0人 (0.0%)	58人 (56.9%)	44人 (43.1%)
合計	542人 (100%)	10人 (1.8%)	448人 (82.7%)	84人 (15.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p>&lt;法学部・経営学部・保健医療学部健康スポーツ科学科&gt;</p> <p>【就職】川重岐阜サービス, オリエンタルランド, ぎふ農業協同組合, 西美濃農業協同組合, ホクレン農業協同組合連合会, めぐみの農業協同組合, TBC グループ, エラン, nobitel, アスピカ, シーサー, ショウワコーポレーション, トーカイ, 総合警備保障, 豊田ケミカルエンジニアリング, キタイチホールディングス, ブロンコビリー, アルビス, イトーヨーカ堂, 内村酸素, エザキホールディングス, 木村医療器, クスリのアオキ, ゲンキー, コメリ, サンコー, サントリービバレッジソリューション, ジーエフシー, 島袋, 新日本ガス, スターバックスコーヒー・ジャパン, 中部薬品, 歯愛メディカル, 橋本総業, バローホールディングス, ヒマラヤ, ファーストリテイリンググループ, フレッセイ, ベルパーク, マツシマホールディングス, マルエイ, 丸杉, メガスポーツ, 山宗, ユニー, 関西キリンビバレッジサービス, トヨタカローラネット岐阜, トヨタカローラ愛知, ネクステージ, ファミリー, 福岡トヨタ自動車, ホンダカーズ岐阜, 名鉄 AUTO, ヤナセ, 岐阜スズキ販売, 岐阜トヨタ自動車, 秋田屋本店, アピ, 岩戸工業, エノモト, 岐阜工業, 岐阜プラスチック工業, 信号器材, 太平洋工業, タカギセイコー, 東洋水産, トヨタ自動車, 豊田鉄工, パナソニックインダストリー, マツシロツール, ミズタニバルブ工業, 明光化成工業, 豊生プレーキ工業, レゾナック, 大和冷機工業, オカザキ, 岐建, 積水ハウス, 大成ロテック, タマホーム, 東海カッター興業, プレサンスコーポレーション, 松岡コンクリート工業, 前田道路, ANA 沖縄空港, ANA 中部空港, 東日本旅客鉄道, 西日本旅客鉄道, 近畿日本鉄道, 西濃運輸, 濃飛倉庫運輸, サントリーロジスティクス, 日立自動車交通, 大垣共立銀行, 富山銀行, 防衛省自衛隊, 法務教官, 法務省刑務官, 警視庁, 富山県警察, 福井県警察, 静岡県警, 岐阜県警察, 滋賀県警察, 大阪府警察, 兵庫県警察, 徳島県警察, 沖縄県警察, 名古屋市消防局, 新城市消防, 牧之原市役所, 羽島市役所, 北海道教育委員会, 岐阜県教育委員会, 京都府教育委員会, 島根県教育委員会, 武相中学・高等学校, 聖霊女子短大付属高等学校, 関西大学北陽高等学校, 啓晴高等学校, インフォファーム, タック, 長野日報社, キナン, レンテック大敬, PwCJapan 有限責任監査法人, アーク有限責任監査法人, 有限責任あずさ監査法人, 有限責任監査法人トーマツ, あすか税理士法人, グロースリンク税理士法人, TACT 高井法博会計事務所, 税理士法人ティグレパートナーズ, 税理士法人平川パートナーズ, リコーブラックラムズ東京 ほか</p> <p>【進学】朝日大学大学院、順天堂大学大学院 ほか</p> <p>【その他】日本競輪選手養成所</p>				
<p>&lt;保健医療学部看護学科&gt;</p> <p>朝日大学病院、大垣市民病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院、大垣徳洲会病院、岐阜市民病院、稲沢市民病院、西濃厚生病院 ほか</p>				
<p>&lt;歯学部&gt;</p> <p>朝日大学病院、朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所、朝日大学医科歯科医療センター、大阪歯科大学附属病院、港スワン歯科・矯正歯科、愛知医科大学病院、岡山大学病院、金沢医科大学病院、岐阜大学医学部附属病院、広島大学病院ほか</p>				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	131人 (100%)	110人 (84.0%)	6人 (4.6%)	15人 (11.5%)	0人 (0.0%)
経営学部	154人 (100%)	124人 (80.5%)	9人 (5.8%)	21人 (13.6%)	0人 (0.0%)
保健医療学部 看護学科	89人 (100%)	84人 (94.4%)	1人 (1.1%)	4人 (4.5%)	0人 (0.0%)
保健医療学部 健康スポーツ科学科	115人 (100%)	103人 (89.6%)	0人 (0%)	12人 (10.4%)	0人 (0.0%)
歯学部	128人 (100%)	53人 (41.4%)	53人 (41.4%)	22人 (17.2%)	0人 (0.0%)
合計	617人 (100%)	474人 (76.8%)	69人 (11.2%)	74人 (12.0%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画書（シラバス）の作成は、毎年10月以降、教務学生委員会、教授会等において、各学部等の次年度授業計画を決定し、その後、各授業科目担当教員に対し、授業計画書（シラバス）作成に必要となる、「講義概要」「到達目標・卒業要件との関連」「授業計画・時間外学修」「履修の条件・注意事項」「成績評価基準方法」「テキスト」「参考書」「オフィス・アワー」等を記載した作成要領について、FD研修会において説明・確認を行ったうえ作成を依頼している。</p> <p>授業担当教員が作成した授業計画書（シラバス）は、2月～3月中旬に、各学部において、学部長等のチェックを実施し、授業計画書（シラバス）が正しく記載されているかを確認の上、必要に応じて修正を求めている。</p> <p>作成した授業計画書（シラバス）は、3月下旬までに、大学ホームページで公表している。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位の授与及び成績評価は、学則第 26 条及び第 30 条に基づき、試験の成績、平素の学修成績、出席状況等を総合して行っている。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる授業科目については、各学部細則に定めるところにより当該学修の成果を評価して単位を授与している。

成績評価基準は、科目毎に「定期試験」「授業の取り組み状況」「レポート」「小テスト」等の割合を定め、履修要覧やホームページに記載し、あらかじめ学生に対し公表している。

各授業科目の成績評価は、授業計画書(シラバス)に明示した成績評価の方法と基準に従い、各教員が評価を行っている。また、一つの科目で、複数教員が担当する科目においては、成績分布に関する申し合わせ等を行い、評価にばらつきや不公平が生じないように認識の統一を図るなど、厳格かつ適正に評価し行っている。

成績の評価は、GPA に換算し、学生に周知しており、その結果を履修上限の緩和等への活用も行っている。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価については、アセスメントポリシーに関する規程において、学生の学修成果の評価の方針(アセスメントポリシー)について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等に関し必要な事項を定め、達成すべき質的水準については、同規程第 4 条において、GPA 制度に関する規程に基づき GPA を算出する制度を定める。

GPA の算出方式は、学生が当該年度(または、在学中の全ての期間)に成績評価を受けた授業科目を次表のグレード・ポイント(GP)に変換し、当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修登録合計単位数で除した値(小数点第 3 位以下切り捨て)とする。

成績評価(点数:100点満点)	GP
S(100~90点)	4.0
A(89~80点)	3.0
B(79点~70点)	2.0
C(69~60点)	1.0
D(59点以下)	0.0

<GPA 算出方法>

$$\frac{(S \text{ 評価の単位数} \times 4) + (A \text{ 評価の単位数} \times 3) + (B \text{ 評価の単位数} \times 2) + (C \text{ 評価の単位数} \times 1)}{\text{履修登録合計単位数}}$$

(※ なお、教職課程科目、単位認定科目については、その計算式には含めない。)

GPA を活用した調査、分析は、授業科目については、各学部 FD 委員会及び担当教員が授業科目の成績評価の分布及び授業評価の結果を確認し、授業の改善・向上・開発に取り組んでいる。教育課程については、各学部・学科において検証の結果を共有し、全学又は学部・学科として改善・向上・開発に取り組んでいる。

また、各学部は、全学 FD 委員会及び IR 推進本部へ定期的にデータ提供を行い、IR 推進本部において成績分布や GPA などの分析を行っており、全学部生の GPA 分布(ヒストグラム)をホームページ上で公表している。

また、科目別学業成績(年度別比較表)を学期終了時に作成し、教務担当事務窓口にて公表している。(学内のみ公表。)

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○法学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（法学）の学位を授与している。

教養教育科目（共通） 必修10単位、選択24単位以上

法学専門教育科目（コースを選択）

公務員コース 必修58単位、選択必修12単位以上、選択8単位以上

企業法務コース 必修46単位、選択必修16単位以上、選択16単位以上

演習科目（共通） 必修12単位

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 基本六法を中心とする諸法律に関する幅広い知識及び高度な専門性を有する分野の知識を身に付けている。
2. 社会情勢の変化や多様なニーズに対応し得る法的思考能力、判断力及び行動力を身に付けている。
3. 上記1と2の能力を法曹、行政、税務等の専門的職業において発揮するための応用力を身に付けている。
4. 深い教養と豊かな人間性及び国際性を身に付けている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○経営学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（経営学）の学位を授与することとしている。

基礎教育科目 必修8単位、総合教育科目 選択22単位以上

言語教育科目 選択必修4単位

専門教育科目 必修42単位、選択必修8単位、選択40単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. ビジネスマインドを備え、地域と事業の発展に貢献し、組織の一分野を担いうる知識と技量を身につけている。
2. 情報を活用して適切なコミュニケーションと意思決定を行いうる知識と技量を身につけている。
3. ソーシャル・キャピタルを理解し、実践的に経営に参画、挑戦できる企画力・実践力を身につけている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部看護学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（130 単位以上）を修得した者に対して、学士（看護学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 12 単位、選択 6 単位以上

専門基礎科目 必修 29 単位、選択 4 単位以上

専門科目 必修 78 単位、選択 1 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 看護の対象となる人々を包括的に理解し、援助的関係を構築する能力を身につけている。
2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する高い倫理観を身につけている。
3. 保健医療福祉チームの一員として、多職種間で連携・協働できる基礎的能力を身につけている。
4. 根拠に基づき必要とされる看護を判断し、計画的・創造的に実践する能力を身につけている。
5. 看護が果たすべき社会的責務を理解し、地域社会に貢献する基礎的能力を身につけている。
6. 社会人としての豊かな学識、国際性を身につけている。
7. 自己の看護観を育みながら、生涯にわたりその能力の維持・向上に努める姿勢を身につけている。
8. 看護学の発展に寄与できる探究心及び基礎的な研究的態度を身につけている。

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部健康スポーツ科学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（124 単位以上）を修得した者に対して、学士（健康スポーツ科学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 8 単位、選択 18 単位以上

専門教育科目 必修 32 単位、選択必修 2 単位以上、選択 64 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. オールラウンドなスポーツ実践能力
2. ライフステージに応じたスポーツ指導能力
3. 健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力
4. スポーツにおける企画及び管理・運営能力

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○歯学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（歯学）の学位を授与することとしている。

基礎教育系科目 24 単位以上

専門教育系科目 6,756 時間以上履修し、修了の認定を受ける

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 歯科医師として必要な倫理観や人間性を身につけるとともに、幅広い知識と豊かな教養そして社会性を有している。
2. 地域社会や国際未来社会で活躍できるコミュニケーション能力や英語能力を有しているとともに幅広い視野とリーダーシップを有している。
3. 歯科医学の専門知識及び口腔疾患の予防・診断・治療に関する知識・技能を修得している。
4. 全身医学との関連を理解し、患者にとって良質で安全な歯科医療を実践することができる。
5. 多様化する地域社会の歯科医療ニーズにきめ細やかに対応し、口腔ケア、在宅歯科診療や、地域包括ケアシステムなど多職種連携チーム医療をもとに、地域社会に貢献する歯科医療を実践できる高い臨床能力を身につけている。
6. 研究心と論理的思考能力を持って日々進歩する歯科医学・歯科医療を常に研鑽し、歯科医療の発展のために生涯にわたり自らの歯科医療の知識と技術の向上を図ることができる。

卒業認定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法学科	124 単位	⑦・無	各年次における学期毎 22 単位
経営学部	経営学科	124 単位	⑦・無	各年次における学期毎 22 単位
保健医療学部	看護学科	130 単位	⑦・無	1,3,4 年次年間 46 単位 2 年次年間 50 単位
	健康スポーツ科学科	124 単位	⑦・無	各年次における学期毎 22 単位
歯学部	歯学科	226 単位	⑦・無	— 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : <a href="https://www2.asahi-u.ac.jp/asahi-ir/">https://www2.asahi-u.ac.jp/asahi-ir/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : <a href="https://www2.asahi-u.ac.jp/asahi-ir/">https://www2.asahi-u.ac.jp/asahi-ir/</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.asahi-u.ac.jp/inf/fac/f-shisetsu/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法学科	685,000 円	300,000 円	240,000 円	施設維持費
経営学部	経営学科	685,000 円	300,000 円	240,000 円	施設維持費
保健医療 学部	看護学科	725,000 円 (1年次362,500 円)	300,000 円	700,000 円	施設維持費、実習費
	健康スポーツ 科学科	725,000 円	300,000 円	290,000 円	施設維持費
歯学部	歯学科	1,900,000 円 (1年次950,000 円)	400,000 円	1,180,000 円	施設維持費、教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
① オフィスアワーについては、履修要覧や履修の手引き、更には教員の研究室のドアに掲示して学生に広く周知し、学生の様々な疑問や相談に応えられるようにしている。
② TAを活用し、主に実習科目を中心に配置し、彼らに授業運営全般の補助を行わせることで、学部学生に対する教育効果を高めている。
③ 指導教員制度を設け、学生一人ひとりに対して専任教員が指導教員となり、修学指導に限らず生活・就職指導等についても、在学中一貫した個別指導体制をとっている。
④ 資格取得支援については、法学部・経営学部・保健医療学部健康スポーツ科学科は、実社会で必要となる基礎能力の修得と資格取得をサポートする体制を整備している。学生が自主学修により、本大学指定の資格（取得年度に応じて47～67種類）を取得した場合には、本学で定めた資格ランクに応じて奨学金を支給する制度を設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要)
<法学部・経営学部・保健医療学部健康スポーツ科学科> 就職先企業と学生とのベストマッチを目指した就職支援
・個性・自主性を発揮できる能力育成 学生一人ひとりに合わせた個別指導と企業情報のアドバイスをを行っている。
・業界研究・企業研究 3年生を主たる対象に、各業界を代表する企業に講演いただき、実際の仕事や業務内容を確認できる機会を設けている。
・ひと足早く社会人を体験するインターンシップ制度 2・3年生を主たる対象に、岐阜県、愛知県などの企業や自治体で約1～2週間に渡りさまざまな業務を体験するインターンシップ制度を設けている。
企業と大学による面接対策講座 3年生を対象に、企業の人事担当者様を講師に迎え、本番に近い形の模擬面接を行っており、本番同様の環境のもと、自己の強みや将来の希望を明確化させビジネスの第一歩としている。



<p>&lt;保健医療学部看護学科&gt; 看護学科の学生は、そのほとんどが看護師を目指している。学生の就職活動に関して、教員、学事担当課及び就職支援課が連携して、次のような支援を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院等からの求人情報の案内</li> <li>2. 就職ガイダンスの開催</li> <li>3. 履歴書作成及び面接の指導</li> </ol> <p>&lt;歯学部&gt; 6 学年学生及び本学既卒者を対象とした歯科医師臨床研修制度に係る説明会を開催している。</p> <p>&lt;AGO (ASAHI GROWTH OPPORTUNITY) の設置&gt; 学生のキャリアのための成長と機会を提供する場としてAGOを設置している。AGOは、企業情報収集やエントリー、web テスト用のパソコン設置や、就職資料・図書・新聞等を揃え、学生の就職活動の拠点となっている。また、面接可能なスペースや面談室、オープンスペースを多く用意し、教員・職員と相談しやすい環境を整えている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学における学生に対する健康相談、心的支援、生活相談等は、保健管理に関する専門的業務を総合的に行うとともに、学生の身体的、精神的健康管理及び維持・増進を図ることを目的として、健康管理センターと学生の学修支援・障がい者支援等を目的として設置された「学生支援センター」、並びにそれ以外の生活相談等を担当する「学生相談室」を設置しており、これらを担当する職員を置き、各担当者が相互に連携を取りながら学生支援に当たっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康相談については、学生からの学生相談室への相談によるほか、健康管理センターが主管する学生定期健康診断における医師の所見に基づき、学生に精密検査を促す等の対応をしている。</li> <li>② 心的支援については、学生相談室を窓口とし、学生相談員が対処できる事項については、学生指導教員と連携して面接指導を行い、適切な助言を与えている。また、対処が困難なものや学生本人が希望する場合については、健康管理センターに配置する専門医がカウンセラーとして対処している。 キャンパス内には、歯科・内科・スポーツ整形外科のある朝日大学医科歯科医療センターがあり、ほかにも朝日大学病院、PDI 岐阜歯科診療所を有しており、三医療機関に受診時の診療費から自己負担金を補助している（保険診療の場合は全額補助、自費診療の場合は半額補助）。</li> </ol>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法： <a href="http://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/pub-info/">http://www.asahi-u.ac.jp/inf/disc/pub-info/</a></p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F121310106043
学校名 (〇〇大学 等)	朝日大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人朝日大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		249人	371人	389人
内訳	第Ⅰ区分	145人	214人	
	第Ⅱ区分	60人	106人	
	第Ⅲ区分	44人	51人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				－
合計 (年間)				393人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	15人	人	人
(備考) 「修得単位数が標準単位数の5割以下」と「出席率が5割以下」は同一人物です。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	—	前半期	人 後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	—
年間計	—
(備考) 退学の内1名は「3か月以上の停学処分」と同一人物です。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	—
年間計	—
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	49人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	49人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。